



営農NEWS



秋冬ハクサイにおけるアブラムシ類の被害発生 に注意しましょう

秋冬ハクサイも結球期をむかえ、今後は出荷の作業が忙しくなる時期となります。

さて、病害虫発生予報 11 月号（県病害虫防除所）によりますと、10 月下旬現在、秋冬ハクサイにおけるアブラムシ類の寄生株率は、平年よりやや高く（本年 6.3%、平年 1.0%）、発生地点率は高い（本年 38%、平年 6%）状況とのことです。

秋冬ハクサイに寄生するアブラムシ類としては、モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ダイコンアブラムシなどがありますが、主体はモモアカアブラムシとニセダイコンアブラムシと考えられます。

収穫期近くになっても、これらアブラムシ類が多発生しますと、品質の低下を招く恐れがありますので、圃場の発生状況をよく観察して、発生に応じて防除に努めてください。

【モモアカアブラムシの発生生態】

多種の野菜や草花をはじめとする草本植物や、木本を含む多くの作物および雑草に寄生します。主に初夏（5～6 月頃）と秋（10～11 月頃）に発生が多くなり、盛夏には一時的に減少する傾向があります。

寄生して増殖すると、茎葉が萎凋し、新葉の生長が止まるなど、品質低下や収量減の原因となります。

また、ハクサイモザイク病やえそモザイク病などのウイルス病を媒介するため、発病すると商品価値を失ってしまいます。

【ニセダイコンアブラムシの発生生態】

ハクサイやダイコン、カブなどアブラナ科植物を主体に寄生します。春の発生は少ない傾向ですが、秋季が高温で経過するとハクサイなどで大発生することがあります。飛来源は、圃場周辺の雑草や取り残しの野菜などです。

寄生して増殖すると、茎葉の生長が止まるなど、品質低下や収量減の原因となります。

また、ハクサイモザイク病やえそモザイク病などのウイルス病を媒介するため、発病すると商品価値を失ってしまいます。

<防除対策のポイント>

1 近年、アブラナ科葉菜類の殺虫剤防除が、ジアミド系剤（プレバソン、フェニックスなど）やマクロライド系剤（アフーム、アニキなど）、プレオ、アクセルなどが中心になっており、これらの薬剤はチョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アオムシ、ヨトウムシ、コナガ、ハイマダラノメイガなど）に登録があつて、高い効果を発揮します。しかし、（カメムシ）目が異なるアブラムシ類には登録がなく、効果が期待できませんので、必要（発生）に応じてアブラムシ類に効果のある薬剤で防除する必要があります。

2 寄生が結球内部まですすむと、防除が難しくなりますので、早めに薬剤散布を行いましょ。薬剤散布は、収穫前日数に十分注意し、薬液が十分かかるように丁寧に行いましょう。

表 1 ハクサイ アブラムシ類の主な防除薬剤（平成 26 年 11 月 4 日現在）

薬剤名（主な系統名）	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
ウララDF（－）	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
アグロスリン水和剤（ピレスロイド）	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
スタークル顆粒水溶剤（ネオニコチノイド）	2,000～3,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
コルト顆粒水和剤（－）	4,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
アドマイヤーフロアブル（ネオニコチノイド）	4,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
トレボン乳剤（ピレスロイド）	1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
パダンSG水溶剤（ネライストキシン）	1,500 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040